

◆◆◆ 12月1日、「緊急地震速報一周年記念講演会」及び「緊急地震速報関連機器展示会」開催

緊急地震速報の一般への提供が平成19年10月1日に開始され、また、同年12月1日には気象業務法が改正され、緊急地震速報は気象庁の発表する警報のひとつに位置付けられました。これら両者の一周年を記念して、講演会「情報から始まる防災～緊急地震速報をより減災に役立てるために～」(気象庁と緊急地震速報利用者協議会共催)および「緊急地震速報関連機器展示会」(緊急地震速報利用者協議会主催、気象庁後援)が、それぞれ12月1日に科学技術館(東京都千代田北の丸公園)で開催されました。



上：講演会場の様子 下：展示会の見学者

講演会は、気象庁長官の挨拶で開会され、気象庁地震火山部管理課長の宇平幸一氏による『緊急地震速報の発表実績と利用の心得』、防災・危機管理ジャーナリストの渡辺実氏による『緊急地震速報の的確な伝送方法と課題』また、群馬大学大学院工学研究科教授の片田敏孝氏による『緊急地震速報が有効に活かされるために』と題した3つの講演が行われ、最後は緊急地震速報利用者協議会の事務局長(当センター理事長)の挨拶で閉会されました。この講演会には400名近い来場者があり、同館サイエンスホールは満員に近い状況で、それぞれの講演に続き活発な質疑応答もあり、緊急地震速報の関心の高さの一端が窺われました。



ることができました。

一方、展示会は1階の催物場で行われ、緊急地震速報利用者協議会の22会員と同協議会事務局からの出展がありました。各展示ブースでは緊急地震速報の受信端末装置や配信サービスの展示や実演が行われました。多くの来場者が、緊急地震速報の仕組みの説明を受けたり、実際の報知音などを聞いたり、また、熱心に質問をしたりして、緊急地震速報の有用性を実感していました。会場には、午前、午後とも、溢れる程の来場があり、午後に行われた講演会と同様に、ここでも緊急地震速報に対する関心の高さを垣間見

(財団法人気象業務支援センター配信事業部長 加藤芳夫)